



思いやりと生きる力

童心会だより 1月



生みの親といっしょによりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
 わたしを 見つめて
 わたしを 聞いて
 わたしを 呼んで

〔初夢: Well-being〕

～心も体も健康で社会的にも幸せになるために～

「新年明けましておめでとうございます。私の今年の初夢は、子どもたちに幸せな人生を導くためにはどうしたらいいのか？という願いでした。」
 近年目まぐるしい進化をとげている脳神経科学の世界は、学びが始まる瞬間から子どもの脳を健康に育てる方策、すなわち最適な脳発達のために土台をつくることの取り組みを始めるよう告げています。

「それは学校に入学する日ではなく、生まれた日からです。子宮の中でさえ、胎児は親の声を学んでいます。生後3年間は神経細胞の繋がりをづくり、脳の働き全体を調整していく大切な時期である」と言っています。

昨年12月に一冊の本が訳者の掛札先生から私に届きました。

「ペアレント・ネーション(保護者の国)」
 ～親と保護者だけに子育てを押しつけない社会のつくり方～
 ダナ・サスキンド著・掛札逸見訳 明石書店

このご本の中でも著書は次のように書いてありました。
 「新生児の脳には1000億個の神経細胞があります。生後最初の数ヶ月、数年で神経細胞は爆発的に増えます。新しい経験一つひとつ、赤ちゃんが聞き、見て、触れ、味わい、嗅ぐもの、そして撫でられ、抱っこされ、子守唄を聞き、教わる一つひとつが脳細胞につながるきっかけです。赤ちゃんは賢く生まれてくるのではなく、賢く育てられていくのだとも私たちは知っていました。」
 改めて私たちは新しい科学の進化に備えた取り組みを始めなければなりません。それらの一つひとつがWell-being(心も体も健康で、社会的にもより良い生活)を得ることができる人になるのです。



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
 遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番

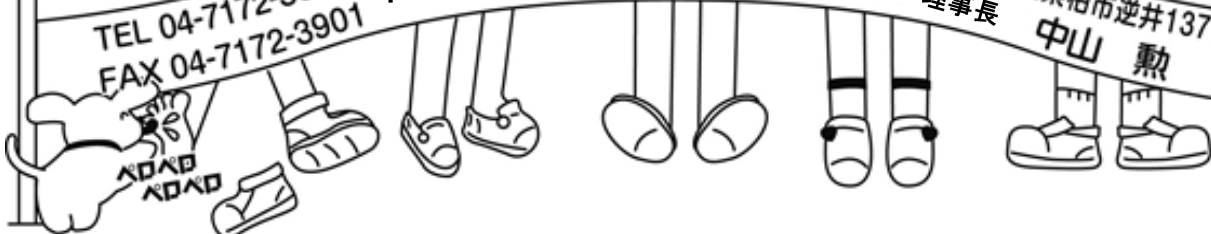


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
 FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
 理事長 中山 勲



何度もお話ししていることですが、私の人間教育の基盤は「五感を刺激する0歳からの人間教育」です。
そして次のような(社福)童心会の「学びの訓え」につながっていったのです。

興味 = 見て倣い(模倣) 観せて 学び(視覚)
関心 = 聞いて考え(思考) 聴かせて 習う(聴覚)
好奇心 = 触れて 知って(知覚) 触って 記憶する(触覚)
風に 薫りを 嗅ぎ 五味・五色・五感に 四季を味わう

また私たちは人間教育のあり方に次のような五感を刺激する革新的な手法、
0歳からの非言語コミュニケーションを大切にすると人とのやりとり・受け答え
サーブ&リターン(Serve & return・応答関係)を取り入れたのです。

わたしを ぎゅっとして (触覚・嗅覚・味覚)
わたしを 見つめて (視覚)
わたしを 聞いて (聴覚)
わたしを 呼んで (視覚・聴覚)

そしてまたわたしたちのこのような手法を取り入れた(社福)童心会の人間教育は、
比較認知発達科学の理論が実証してくれたプログラムが入っていたのです。

外受容感覚 = 五感の刺激 = 園外保育 = 外環境・四季環境 = 人・もの・こととの関わり
自己受容感覚 = 身体的接触 = 愛された育ち = ふれあい = Serve & return = Attachment
内受容感覚 = 情動的接触 = 感情・情緒 = だきしめ言葉 = Serve & return = Attachment

そしてさらに私たちは毎日のDaily work(日課)の中で、体・心・脳を毎日毎日の暮らし・生活を通して
脳細胞のつながる組み立てを行っていたのです。

新しい脳科学によると脳は4歳頃、臓器としてほぼ育ちを終えるそうです。
だから私たち養育者は、例えば記憶、感情、行動、運動能力、言語、人間関係などの
脳の働きすべてに関わる良い環境を与えなければならないのです。

改めて今、私たちの保育ではない人間教育をふり返り、私たちに生命を授けられた意味を考えると
30万年前に誕生した現生人類、ホモ・サピエンス(賢い人)の遺伝子を伝え、
つなげる使命を持たされているような気がするのです。

新しい脳神経科学のいう学びが始まる瞬間は「生まれた時から」ということであるなら
「人間教育は生涯学習(Long life learning)・生涯教育(Long life education)」であるべきでしょう。

また今の時代の中でグローバルな観点に立つことが求められているなら

世界民族の中の日本民族であることを自覚するべきでしょう。

これからのこの子どもたちの活躍する場が日本や世界の舞台なら、

子どもたちにその準備をし、備えておかなければなりません。

それは文化人類学的な視点が求められ、自分の国の気候・風土・文化・歴史・宗教の成り立ちを知り、
身につけておかなければなりません。

そのためにあるのが私たちの園外保育活動を通じた環境教育であり、
お正月や節分、おひなまつり、端午の節句などの文化的な社会行事、そして人間道や禅などの文化・歴史、
最後に「八百万の神」があると言われる宗教の教えが人間の生きる基盤となっています。

◦笑顔(朝からとびっきりの笑顔) ◦思いやり(すべてのものの喜びや悲しみによりそう心)
◦挨拶(ほぼ笑みと心をこめて) ◦感謝(ありがとうの心を忘れない)

私たちが私たちの生きた証としての使命は、次の世代に生きる者たちへの連鎖ではないかと
改めて新年を迎え、自分の果たすべき役割を強く感じました。ご協力をよろしくお願いいたします。

皆さま どうぞ 今年も よろしく願いいたします！
がんばります！！

令和5年1月吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲

童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】